

第6回 地域活性部会（仮称） 摘録

日 時：平成 29 年 4 月 14 日（金）18:00～20:00

場 所：区役所第 1 会議室

出席委員：佐藤部会長、川田委員長、影山副委員長、荒川委員、大木委員、
老門（泰）委員、黒澤委員、田辺委員、山田委員、（9名）

欠席委員：山部委員（1名）

資 料：次第

資料1 委員名簿

資料2 第6期審議スケジュール案

■資料確認

■区役所人事異動の紹介

区長交代 小田嶋区長

事務局（区役所企画課） 大木課長補佐

1. 議事

（1） 区民会議フォーラムのふりかえり（公開）…配布資料に基づいて

（2） 今後の審議について（公開）…次ページ以降参照

（3） 部会名について（公開）

「みやまえ活性部会 ～スモールビジネスで地域貢献～」

に決定した。

2. 事務連絡（公開）

今後の日程等の確認など

第6回 地域活性部会（仮称） 審議結果要点メモ

※各意見の詳細等は次ページ以降参照

■部会名称

「みやまえ活性部会 ～スモールビジネスで地域貢献～」

■今後の審議・取組の方向性

「地域でお友達・お仕事さがし 第2回」の開催へ

(案) 5月27日 13:00～15:00

- ・ 参加者の声「交流時間不足」+意見・要望へ回答・更なる意見交換の場
- ・ コミュニティづくり・交流を更に深め、定期化することに向けて
- ・ 連絡先をいただいた参加者にフォーラムの記録と共に案内を送付

地域還元・地域貢献につなげる

- ・ 部会の目指すもの…金儲けに終わらず、交流・地域活性化へ例) 商店街等との連携、地域での教室開催や交流など
- ・ 最終的には地域レベルでのイベント開催やコミュニティ形成
- ・ 顕彰や表彰の仕組みの検討など

販売価格入りチラシの公共施設での配架 →現状では困難

- ・ 民業圧迫、公平性の確保などの観点から規制緩和は困難

情報交換の場の形成

- ・ フォーラムでの出会い・つながりの継続、定期化
- ・ ネット上などの場づくりも良いが、直接会う場の設定も重要。

販売・交流等の場の形成

- ・ ソフト系のサービス等も含めた場の形成
- ・ 子育て世代をターゲットに「女性の生き方とも絡めた取組」の検討
- ・ 既存のイベントの場と合わせた試行取組の検討
→ (案) 子育てイベント 「子育てフェス (10月頃) など
- ・ 民間企業・施設等へ場所提供の交渉
- ・ SHOP IN SHOP (既存店舗の一角を提供するやり方) の検討 など

その他の話題

- ・ フォーラムをきっかけに稗原で新団体発足「ゆ～ずパーティー」
- ・ 鷺沼駅再開発時にコミュニティ施設、イベント会場等の要望

■「地域でお友達・お仕事さがし」第2回の開催へ

開催候補日：5月27日（土）13:00～15:00 区役所会議室

- ・ 「時間不足」という感想が多かったので、第2回を開催したい。もっと聞きたい、知りたい、語り合いたいことが互いにある。「またお集まりいただけないでしょうか？」と呼びかける。（田辺・川田）
 - ・ フォーラムの記録を参加者の皆さんにお送りすると同時に、案内ができると良い。あまり間隔が開きすぎないようにする。今回と次回（2週間後）の部会で考えや日程候補をまとめたい。（コンサル）
 - ・ 第2回はただの話合いにせず、何か情報や回答を提示する必要がある。（川田）
 - ・ 若い世代の意見を汲み上げていく。区民会議として考えていることをきちんと伝える必要がある。地域貢献・地域活性化にどうつなげるかということだ。（川田・田辺）
- その後、委員・事務局の日程調整の結果 5月27日（土）13:00～15:00を第一候補とすることに決定。

■地域還元・貢献が重要

- ・ ボランティアとビジネスの中間的な意識を持っていた参加者が多かったようだ。単なる商売に終わらせずに、地域活性化にどうつなげていくかが課題だ。（田辺・山田）
- ・ このままいくと「なんでもあり」になってしまう懸念がある。（影山）
- ・ 「地域でお友達・お仕事探し」。例えば同じような趣味や活動、作品づくりをしている人と地域の中で繋がっていくこと。（川田）
- ・ 地域の商店街と連携ができると良い。ただ宮前区の商店街はかなり弱体化しており、加入率も低下している。（影山・田辺）
- ・ ネット上のバーチャルな商店街や場の形成も考えられ、地域を越えて繋がれる可能性もあるが、現実の場に出てくる機会を設定する。参加する方々が定期的に直接あって交流し、話をすることで顔が見える関係にする必要がある。（田辺・山田・川田）
- ・ 何か活性化に向けた目玉になるもの、話題性のあるものが欲しいところだ。例えば新たな特許になるような画期的な物や商売。それが北部などの高齢化している地域から発信でき、そこに人が集まるようになれば理想だ。（黒澤）
- ・ 現実の場でまず交流して、そこから繋がった人達でバーチャルにも行く方が道筋ではないか。（老門）
- ・ 例えば区民会議で、顕彰や表彰のしくみをつくってはどうか。地域活性化の種を見つけ、頑張りなさいと励ます。（影山）
- ・ ただ、販売ではなく、それを地域の高齢者に提供するなどにつなげたい。子ども向けの教室など教えている参加者も多かった印象だ。例えば、その教室を地域の町内会館で開催するなど、地域の交流につながれば良いのではないか。（影山・コンサル）
- ・ ある程度金儲けをしても良いが、その活動と地域側のニーズとをどうつなげるか。宮前

区に住んで良かったと思ってもらえるようなまちづくりをしたい。(田辺・荒川)

■ 公共施設でのチラシの設置・配架等について → 現状では困難

- ・ 「販売価格等の入ったチラシを公共施設で置きたい」との意見に対する回答が必要ではないか。(山田・コンサル)
- ・ 転入者向けの情報冊子「ぐるっとみやまえ」でも個々の商店や商品の情報を値段つきで掲載するなど、一部行政の考え方も変わってきている例はあるが、区役所や市民館などの公共施設で、販売等に関する広報物の設置はできないのが現状だ。(事務局)
- ・ 公共の場で安易に販売・宣伝を許可してしまうと、きちんと場所代や税金を払って商売をしている人に対して不公平であり、「民業圧迫」になる。議論の余地はない。(影山)
- ・ そもそも行政が何らかの形で関わっているものでなければ、公共施設でのチラシ配架はできない。販売価格提示だけの問題ではない。(事務局)
- ・ 「社協では可能」と話された参加者もいたが、許可が出るとは考えにくく、何か勘違い等があったのではないか。(老門)
- ・ 原価相当、地域還元等であれば、「まちづくり広場ラブみやまえ内で、農家の野菜の販売」などの例がある。(田辺)
- ・ 区民祭などは行政主催ではなく、市民による実行委員会の主催になる。(事務局・川田)
- ・ NOであれば、NOの回答を明確な理由説明と共に提示すれば良い。(コンサル)
- ・ 「若い世代を巻き込みたい」という部会の狙いを踏まえると、現在は、チラシよりネットの方が効果的であり、先日の参加者世代にも馴染みがあるのではないか。(川田)

■ 情報交換の場の形成について

- ・ 「フィードバックが重要」との意見が多かった。今回の記録を連絡先のわかる参加者にお送りし、今後情報共有できる体制をつくりたい。FACEBOOKなのか、HPなのか分からないが。(佐藤)

■ 販売・交流等の場の形成について

- ・ 「クラフト市」というと物品のイメージが強い。他のサービスもありますよというイメージを伝えたい。(山田・川田・荒川・老門)
- ・ 過日に鷺沼駅前で開催された「まちかどマルシェ@」の会場に行ってみた。主婦女性のフィナンシャルプランナーが介護・相続等に関わる相談や情報提供を行っている「こがも会」など、ソフト系のサービスを提供する方も参加していた。(山田)
- ・ 子育て世代の参加が多かったので、女性の生き方などとも、つなげた話として実現できないか。(田辺)

■場の形成に関する具体的な検討

- ・ 区役所と市民館の間の空間が活用できると良い。最終的な理想は地域レベルでの場の開催だが、とっかかりとしては一番良さそうだ。(荒川・大木・川田)
- ・ 夏には太鼓ミーティングなど集客性の高いイベントが市民館である。例えばそうしたイベントに合わせた模擬店のような形で実現をさぐってはどうか。(事務局)
- ・ 例えば「子育てフェスタ」(10月頃)や「遊びランド」(7月頃)などの子育て関連イベントにつなげる。(田辺・荒川・川田)
- ・ 「遊びランド」までは時間が少し足りない。「子育てフェスタ」であれば、まだ実行委員募集もある。(川田・田辺)
- ・ 「子育てフェスタ」でも販売はしていない。パイロットケースとしてや、同日開催の別イベントとして相乗効果を狙うなどの可能性をさぐってはどうか(事務局・コンサル)
- ・ 地域の公園などで実現できないかという意見も出ていた。私の地域では公園で小さな花火大会など開催した例もあるが、公園運営管理協議会等では許可できる範囲が決まっており、宮前区では組織率もまだ低いという現状がある。(老門)
- ・ 「まちかどマルシェ@」の様に、交渉次第では無償で民間企業から場の提供を頂けることがある。まちづくり協議会でも、フォトコンテストの入賞作品展示会に「フレルさぎ沼東急ストア」の2階を無償でお借りしたことがある。銀行などの例もあり、民間施設・店舗・企業等にお願いする方向性が良いのではないか。(川田・田辺)
- ・ 市民館で行ったものへの参加者の中から、「私の地域でもやろう」に繋がると良い。独り立ちへの道筋をつくりたい。(川田・荒川)

■SHOP IN SHOP について

- ・ SHOP IN SHOP は良い方向性なのではないか。(川田)
- ・ SHOP IN SHOP は既存の店舗の一角を借りて販売する方式。区内では有馬の家具屋 ATTRACT が店舗の一角で鎌倉の主婦がつくるケーキを売っている例がある。交流の場になっており、互いの客層にもアピールできるメリットがある。(影山)
- ・ 少ない初期費用、少ない営業日で商売を始められるメリットもある。双方で売り上げや場所代に関する取り決めが必要になる。(コンサル)
- ・ 家具屋は家具だけ売るとい時代ではなくなってきた。(影山)
- ・ 区民会議でスペース提供意思のある店舗を見出し、情報提供や仲介などができれば次につながるのではないか。商店街からフォーラムに参加した方もいた。(コンサル)

■「ゆ〜ずパーティ」(フォーラム後の新たな動き) 川田委員長の報告

- ・ 菅生稗原地域からのフォーラム参加者3名とつながり、北部地域で活動場所をつくる事を目指している。「稗原ゆ〜ず連絡会」下の「ゆ〜ずパーティ」という新しいグループとして、今度の総会で承認を受け、取り組んでいく計画だ。

- ・ 運営はその方々中心になるが、連絡会に参加する様々な地域の団体と繋がる事で、個々ではなかなか確保できない活動場所やバックアップを受けられるようになる。
- ・ 丁度、「稗原ゆ〜ず連絡会」企画のコンサートでフリーマーケットへの出店者を募集していたので、その場で一度販売をやっていただいた。

※稗原ゆ〜ず連絡会：地域一帯で福祉の取組をするため、稗原地区の 7 つの自治会、福祉施設、小学校などが参加して作った連絡会。

■ 鷺沼駅再開発 コミュニティスペースの実現を

- ・ 鷺沼駅再開発が数年後に始まるが、どこかにマルシェや市民活動の場になりうる「コミュニティスペース」が欲しい。働きかけによって実現が可能だと思う。(田辺)
- ・ 地下の狭い空間で会合をしている鷺沼町会も、チャンスを捉えて働きかけをおこなっていきたい。地元では図書館などを要望する声もあると聞いている。(山田)
- ・ 公共施設などの地の利は宮前区の弱点だ。行政の窓口などもあってよい。大岡山、三軒茶屋など、参考になりそうな事例もある。(山田・荒川・田辺)
- ・ 「いろいろ情報はいただくのだが、遠くて参加できない。駅等ではなく、もっと身近な所でやりたい」というご意見もあった。(川田)
- ・ 再開発用地は東急が所有する土地に限られているが、バスロータリーの移設なども計画されており、全体の動線が変わる可能性はある。商店街も心配だろう。(佐藤・田辺)